

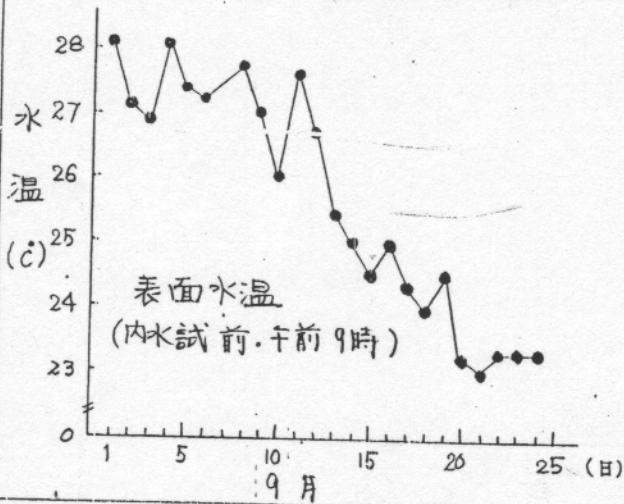
(1986.9.24)

内水試
かわら版
81号

酸欠は

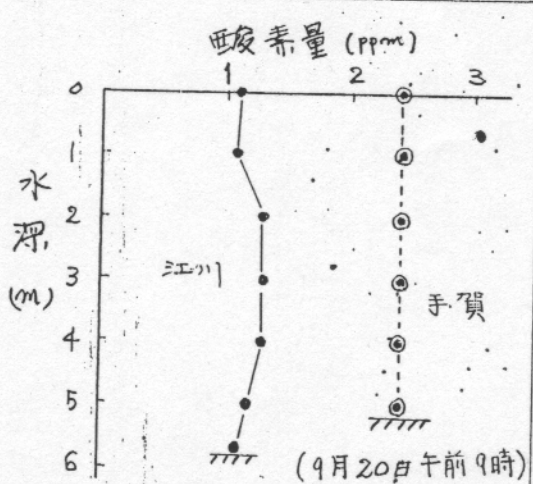
終わっていない

九月も末になり、湖の水温も23℃台を示すようになりました。



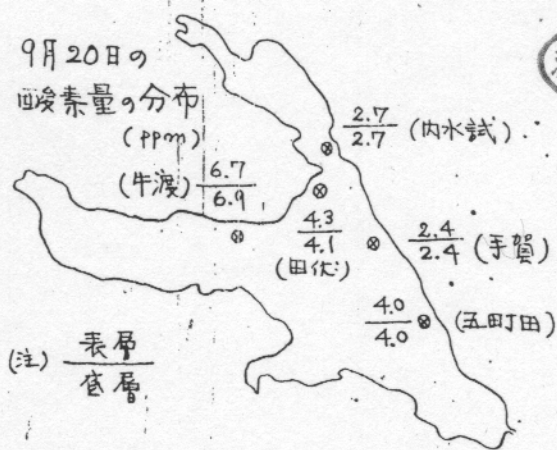
気候が秋になると共に湖も亦、夏型から秋冬型に移行していきます。夏の植物プランクトンの王者であるアオコ(ミクロキステイス)が、段々と元気をなくして、枯水始めているようです。毎年、こういう時期に細いけす漁場で酸欠が起こっています。今年も水温が低下し始めた九月十三日頃から、霞ヶ浦・北浦で酸素量が少なくなっています。

下の図は、九月二十一日の江川漁場と手賀漁場の酸素量の垂直分布を示したものです。



北浦の江川漁場では、水深約6mの底まで約1ppmと大変少なくなりました。辛い養殖コイのへい死はなく、酸素量は回復しました。

この酸素量の低下は、アオコの枯死が始まって、植物プランクトンの量が少なくなってきたことが原因です。



曇天、曇天で、北寄りの風の日が続いたこと等から起こったと考えています。

今年の酸欠は、例年より長引いていますので、まだ安心できません。曇天、無風として北寄りの風にご注意を。

茨内水試図